

高校生の学科別にみた職業興味、職務遂行の自信度 日常生活の基礎的志向性 —職業レディネス・テストを用いた検討—

室山晴美 ((独) 労働政策研究・研修機構)

キーワード：職業興味、学科、高校生

問題・目的

職業レディネス・テスト (以下、VRT) は中学生、高校生の職業への準備度を測定する検査として、1972 年の公表以来、広く活用されてきた。今日までに 2 回改訂されたが、現行版 (第 3 版) は 2006 年の公表以来 12 年が経過している。本稿では、検査の信頼性・妥当性の検証の一環として、高等学校の学科と検査得点との関連について検討を行う。

方 法

分析データ：全日制の高等学校に在籍する 1~3 年生、計 345,834 名 (男子 196,832 名、女子 149,002 名)。採点処理機関の協力により個人情報削除した上で提供された数値データで、2007 年度~2017 年度までに全国で実施 (北海道・東北 13.9%、東京以外の関東 33.6%、東京 6.7%、東海・中部・北陸 18.7%、近畿 4.9%、中国・四国 10.0%、九州・沖縄 12.2%)。

材料：VRT 第 3 版 (A 検査：職業興味、B 検査：日常生活の基礎的志向性、C 検査：職務遂行の自信度を測定)。A 検査と C 検査は Holland, J. L. の職業興味の 6 領域 (R：現実的、I：研究的、A：芸術的、S：社会的、E：企業的、C：慣習的)、B 検査は DPT (D：対情報、P：対人、T：対物) の 3 つの志向性で整理。A 検査と C 検査では 54 項目 (6 領域×各 9 項目) の職務内容の記述に対して 3 件法

で回答。B 検査は日常生活での行動や志向を記述する 64 項目 (D 志向と P 志向は各 24 項目、T 志向は 16 項目) に 2 件法で回答。

結果・考察

A 検査と C 検査では VRT の採点方法に従い、興味や自信が高い順に各項目を 2, 1, 0 点で採点、B 検査では「あてはまる」と回答された項目に 1 点を与え、得点化した。A 検査と C 検査の各領域は 0~18 点、B 検査は D 志向と P 志向が 0~24 点、T 志向が 0~16 点の範囲をとる。

VRT では男女別の換算基準をもっているため、男女別に各学科グループ別の各下位尺度得点の平均値と標準偏差を算出した (Table 1)。学科グループの区分は VRT 第 3 版の標準化の時と同様に、普通、農業+水産、工業+情報、商業、家庭+看護+福祉、総合+その他の 6 つとした。

分散分析の結果、各下位尺度とも学科グループの平均値間で有意差がみられた ($p < .0001$)。学科グループでの多重比較の結果 ($p < .05$)、機械操作や物作り、身体作業と関連する R 領域やデータの分析、研究に関連する I 領域は、興味と自信において、男女ともに工業+情報や農業+水産が他よりも高い。創造的活動に関連する A 領域は、女子では興味に関して工業+情報が他よりも高いが、男子では家庭+看護+福祉と商業が高かった。奉仕や対人的活動に関連する S 領域では、男女ともに興味も自信も家庭+

看護+福祉と商業が高い。企画・立案、組織運営に関連する E 領域では、男子では興味・自信ともに商業と家庭+看護+福祉が高く、女子では商業と工業+情報が高かった。定型的で規則的な作業に関連する C 領域では、男女ともに興味も自信も商業と工業+情報が高かった。B 検査では、データや情報処理を好む D 志向は男女ともに商業、工業+情報が高く、人との関わりを好む P 志向は男女ともに家庭+看護+福祉と商業が他よりも高い。物や動植物を扱うことを好む T 志向は、農業+水産、工業+情報が男女ともに高かった。これらの結果は学科の特徴を反映しており、VRT の妥当性を裏付ける結果となった。

Table 1 男女別、学科グループ別にみた各下位尺度得点の平均値と標準偏差

下位検査・領域/学科	男子 (n=196,832)						女子 (n=149,002)					
	普通 (n=55,646)		農業+水産 (n=19,066)		工業+情報 (n=86,250)		商業 (n=20,969)		家庭+看護+福祉 (n=1,280)		総合+その他 (n=13,621)	
	mean	SD	mean	SD	mean	SD	mean	SD	mean	SD	mean	SD
A 検査	R 領域	7.57 e (4.87)	9.18 b (4.84)	9.79 a (4.64)	7.43 e (4.82)	7.82 d (5.06)	8.05 c (4.91)					
	I 領域	4.73 c (4.56)	5.56 a (4.65)	5.36 b (4.66)	4.78 c (4.48)	4.93 c (4.50)	4.93 c (4.62)					
	A 領域	5.67 d (4.53)	5.57 d (4.45)	5.97 c (4.52)	6.15 b (4.51)	6.40 a (4.69)	5.87 c (4.52)					
	S 領域	5.01 c (4.25)	5.08 c (4.21)	4.66 d (4.09)	5.27 b (4.22)	6.86 a (4.77)	5.06 c (4.18)					
	E 領域	5.80 c (4.44)	5.72 c (4.26)	6.00 b (4.39)	6.94 a (4.55)	6.95 a (4.51)	6.04 b (4.43)					
	C 領域	4.53 cd (4.29)	4.34 d (4.06)	5.22 b (4.34)	6.64 a (4.83)	4.51 cd (4.24)	4.69 c (4.32)					
B 検査	D 志向	10.09 c (5.17)	9.82 d (4.96)	10.73 b (4.95)	11.02 a (4.90)	10.24 c (5.08)	10.28 c (5.04)					
	P 志向	13.68 c (5.35)	13.93 b (5.04)	14.00 b (5.08)	14.39 a (5.07)	14.47 a (5.28)	14.06 b (5.23)					
	T 志向	7.35 d (3.94)	8.56 a (3.88)	8.50 a (3.74)	7.21 d (3.85)	8.19 b (4.03)	7.73 c (3.90)					
C 検査	R 領域	7.29 d (5.07)	8.56 b (5.07)	9.25 a (4.92)	7.27 d (5.01)	7.40 d (5.24)	7.76 c (5.10)					
	I 領域	4.04 b (4.45)	4.58 a (4.50)	4.52 a (4.53)	4.04 b (4.30)	4.11 b (4.46)	4.13 b (4.43)					
	A 領域	4.85 cd (4.42)	4.76 d (4.36)	5.08 b (4.40)	5.17 b (4.37)	5.54 a (4.72)	4.98 bc (4.39)					
	S 領域	5.42 c (4.61)	5.34 c (4.50)	5.29 c (4.53)	5.91 b (4.63)	7.02 a (5.09)	5.49 c (4.53)					
	E 領域	4.87 b (4.46)	4.63 c (4.25)	4.93 b (4.39)	5.81 a (4.56)	5.78 a (4.75)	5.01 b (4.44)					
	C 領域	4.85 cd (4.75)	4.47 e (4.44)	5.81 b (4.88)	6.95 a (5.14)	4.73 d (4.74)	5.01 c (4.75)					

※各下位尺度について、平均値が最も高いものから順に a から e までの記号を付記。記号が異なる場合には $p < .05$ で有意差あり。

※各下位尺度について、a の記号がついた値 (平均値が一番高い) には濃い網掛け、b の記号が付いた値 (平均値が 2 番目に高い) には薄い網掛けをしている。